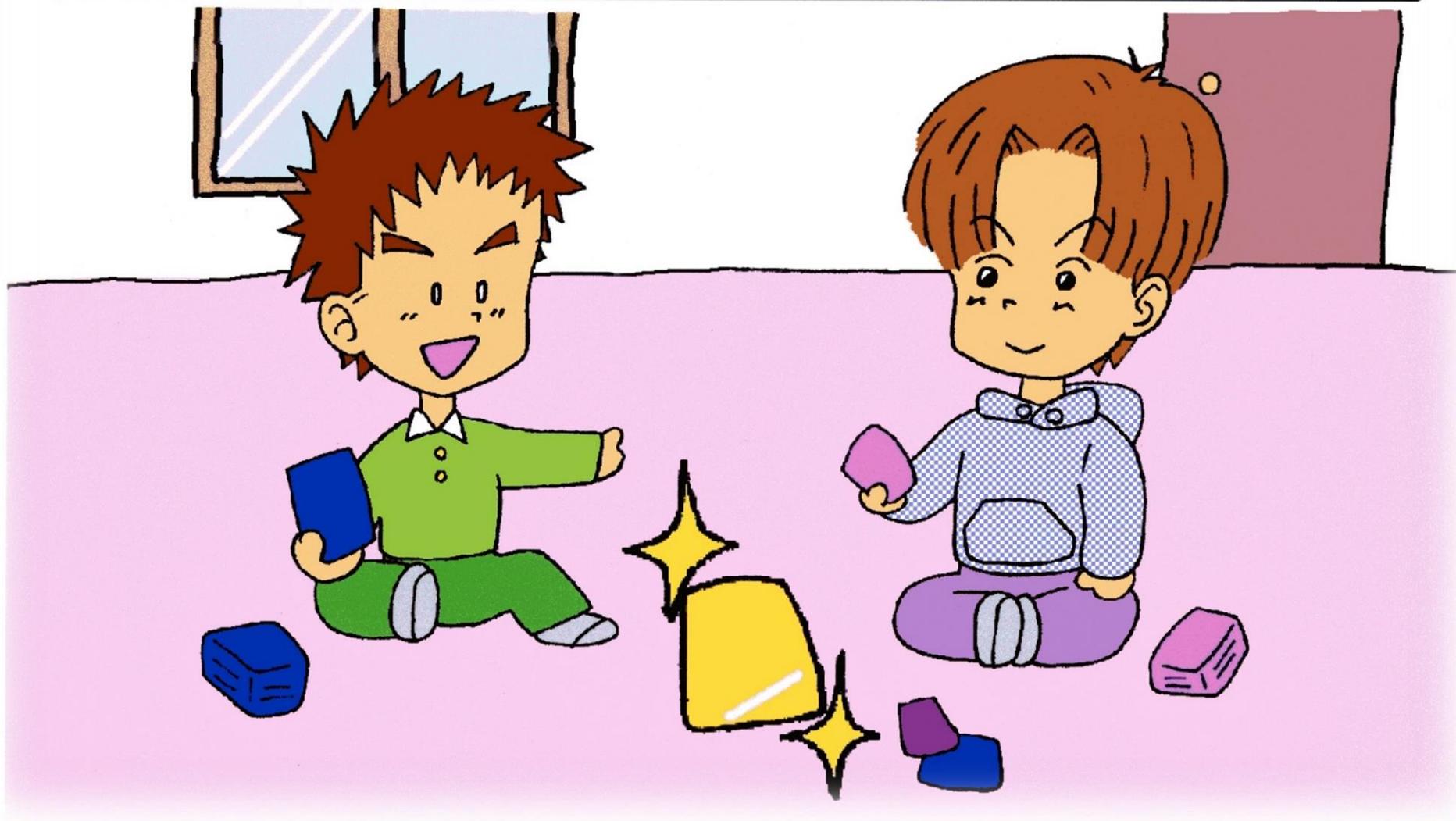


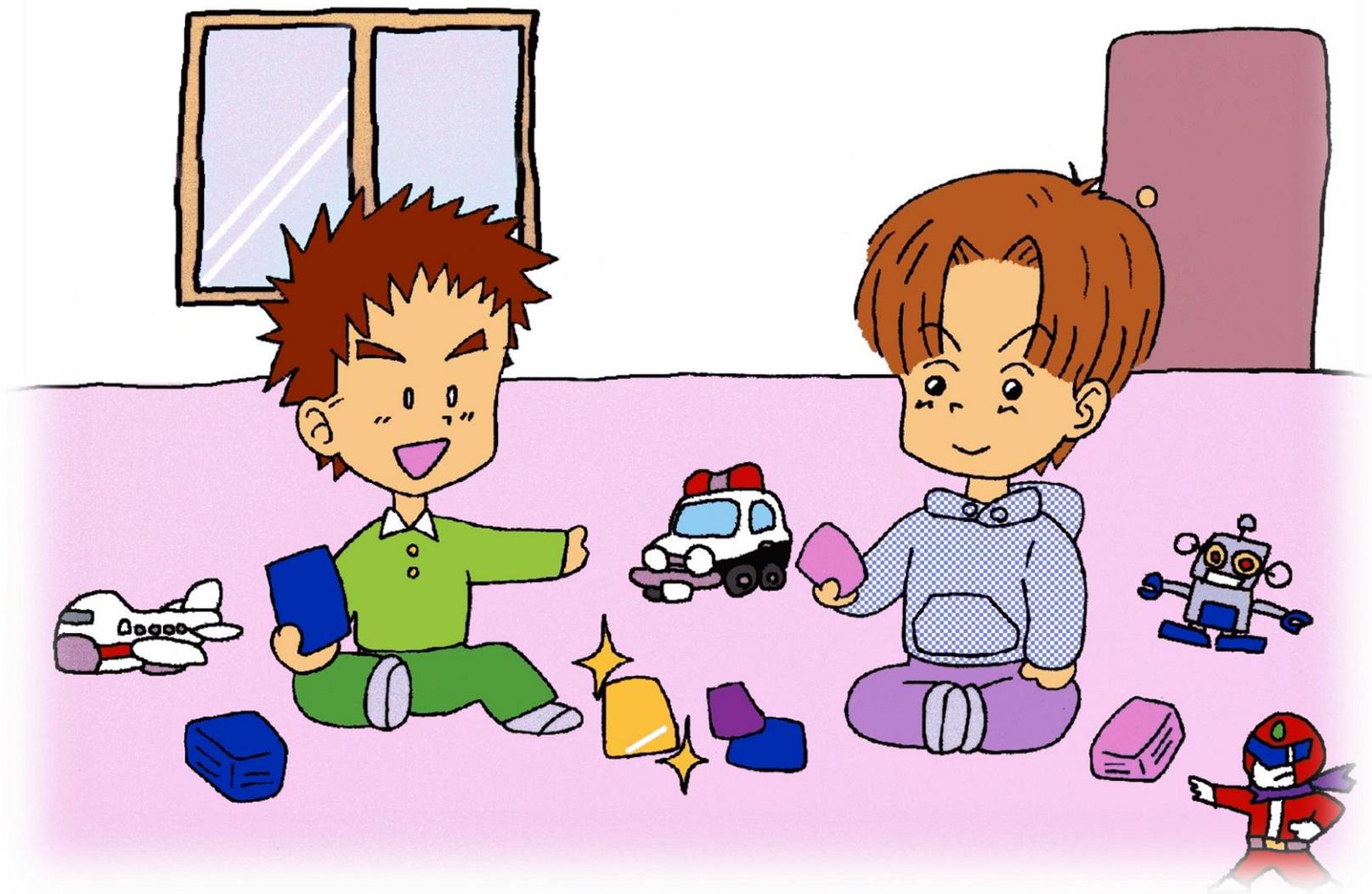
# なくなったカード



けいちゃんは、同じクラスのさっちゃんのお家にあそびに来ています。

さっちゃんが「ぼくの大事なカードみせてあげるよ。いっしょにあそぼう。」  
と言いながら、新しいカードをたくさん出してきました。

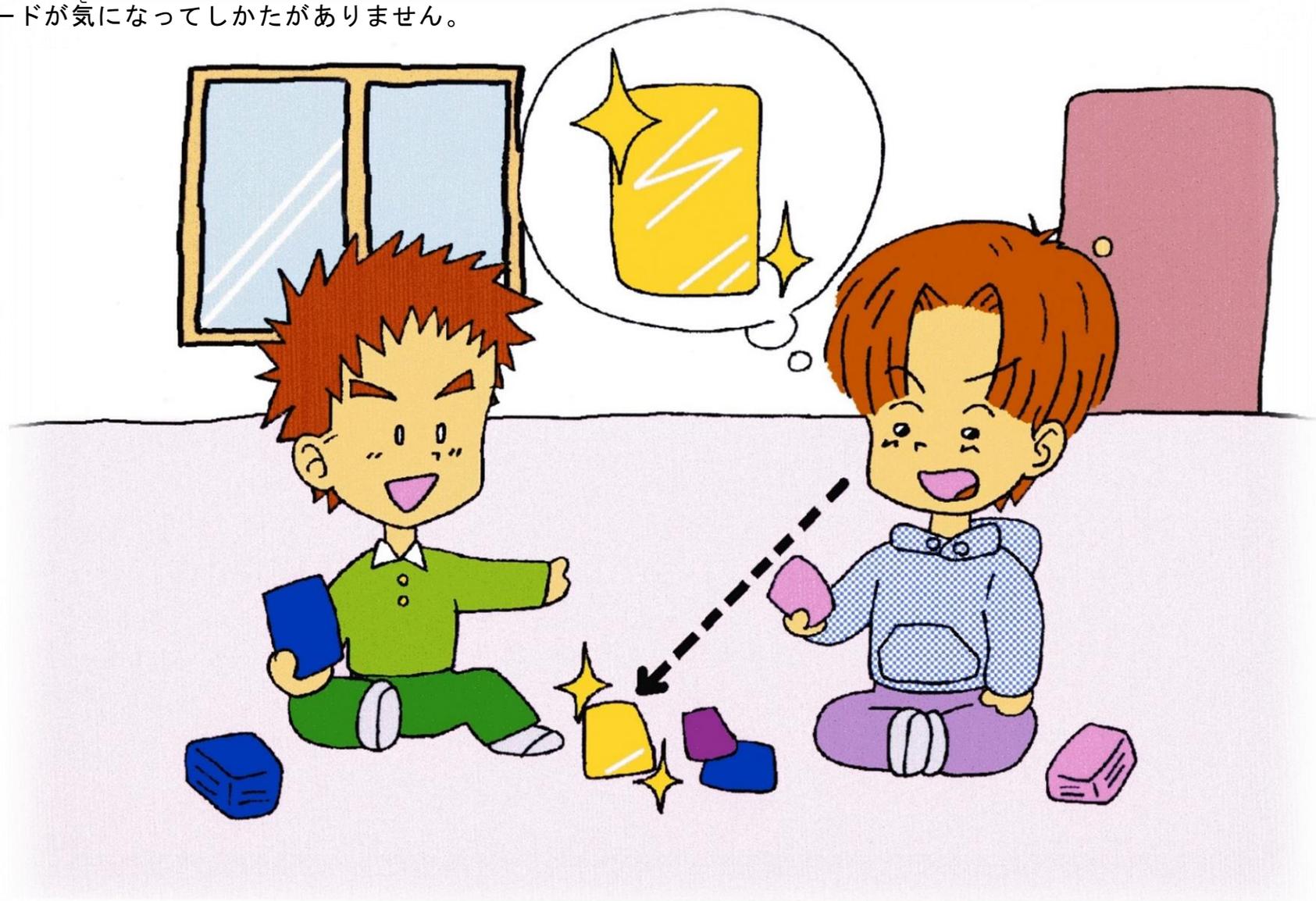
けいちゃんの持っていないカードがたくさんあります。



けいちゃんはその中に、<sup>まえ</sup>前から<sup>ほ</sup>欲しいと<sup>おも</sup>思っていた<sup>きんいろ</sup>金色のカードがあることに<sup>き</sup>気がつきました。

「<sup>きんいろ</sup>金色のカード、かっこいいなあ。ぼくも<sup>ほ</sup>欲しいなあ」

けいちゃんは、<sup>きんいろ</sup>金色のカードが<sup>き</sup>気になってしかたがありません。



さっちゃんがおかしを取りに行ったので、けいちゃんは部屋に一人になりました。

「金色のカード、かっこいいなあ。欲しいなあ。さっちゃん、カードいっぱい持っているし、一枚ぐらいなくなってもわかんないよね。」

けいちゃんは金色のカードをポケットに入れてしまいました。



しばらくして、さっちゃんが戻ってきました。

「おまたせ。一緒にお菓子を食べてよう。」

でも、けいちゃんは、ポケットに入れた金色のカードがとても気になります。

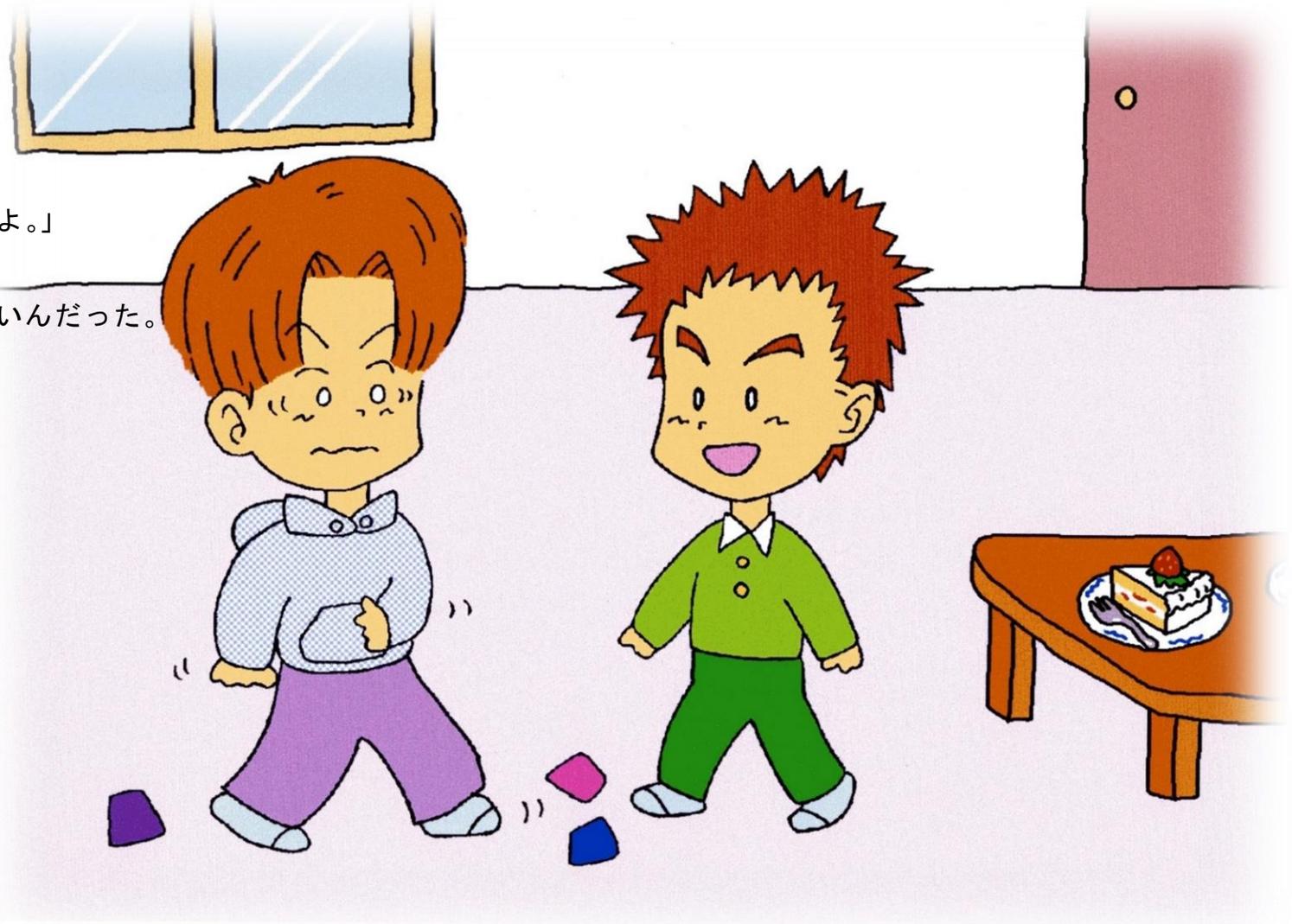
「けいちゃん、どうしたの？なんか変だよ。」

とさっちゃんが聞くと、けいちゃんは、

「あ、あのぼく、早く帰らないといけないんだった。

もう帰るね。」

と言って帰ってしまいました。



ポケットに金色のカードを入れて持って帰って来てしまったけいちゃん。

けいちゃんは嬉しくて「いいだろ。カッコいいだろ。」と弟に見せて自慢していました。

すると、弟が「お兄ちゃん、ぼくにも貸して〜。」と大きな声で言いました。



おお こえ き 気づいたお母さんが部屋 へや はい に入ってきました。

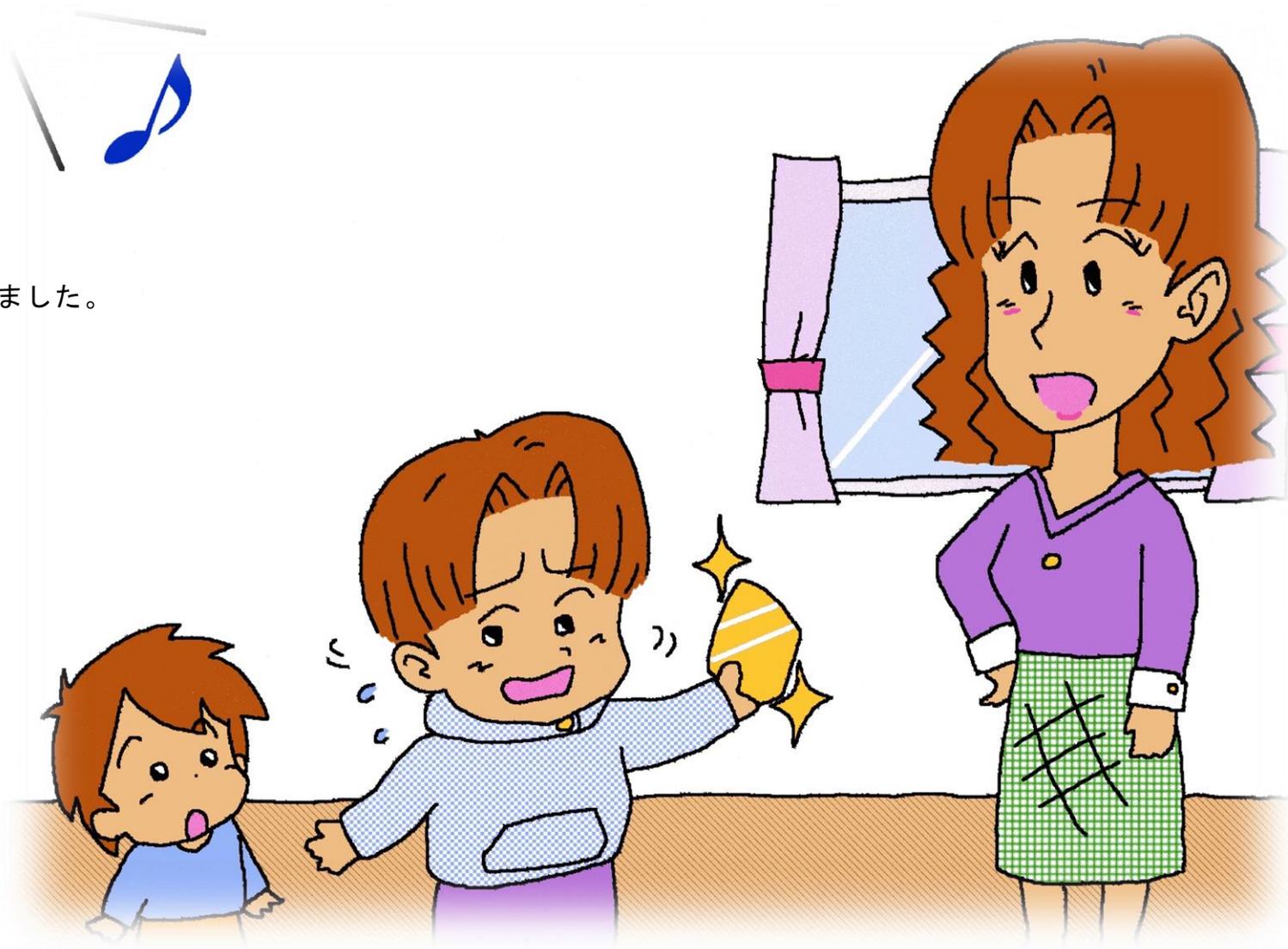
けいちゃんが見たことのないカードを持っていることに気づいたお母さんは、「そのカード、どうしたの？」と聞きました。

けいちゃんは、「あのね、こ、これ…。さっき公園 こうえん ひろ で拾ったの。」

と、嘘 うそ をついてしまいました。

そのとき・・・

ピンポンと玄関 げんかん のチャイム な が鳴りました。



さっちゃんが訪ねてきました。

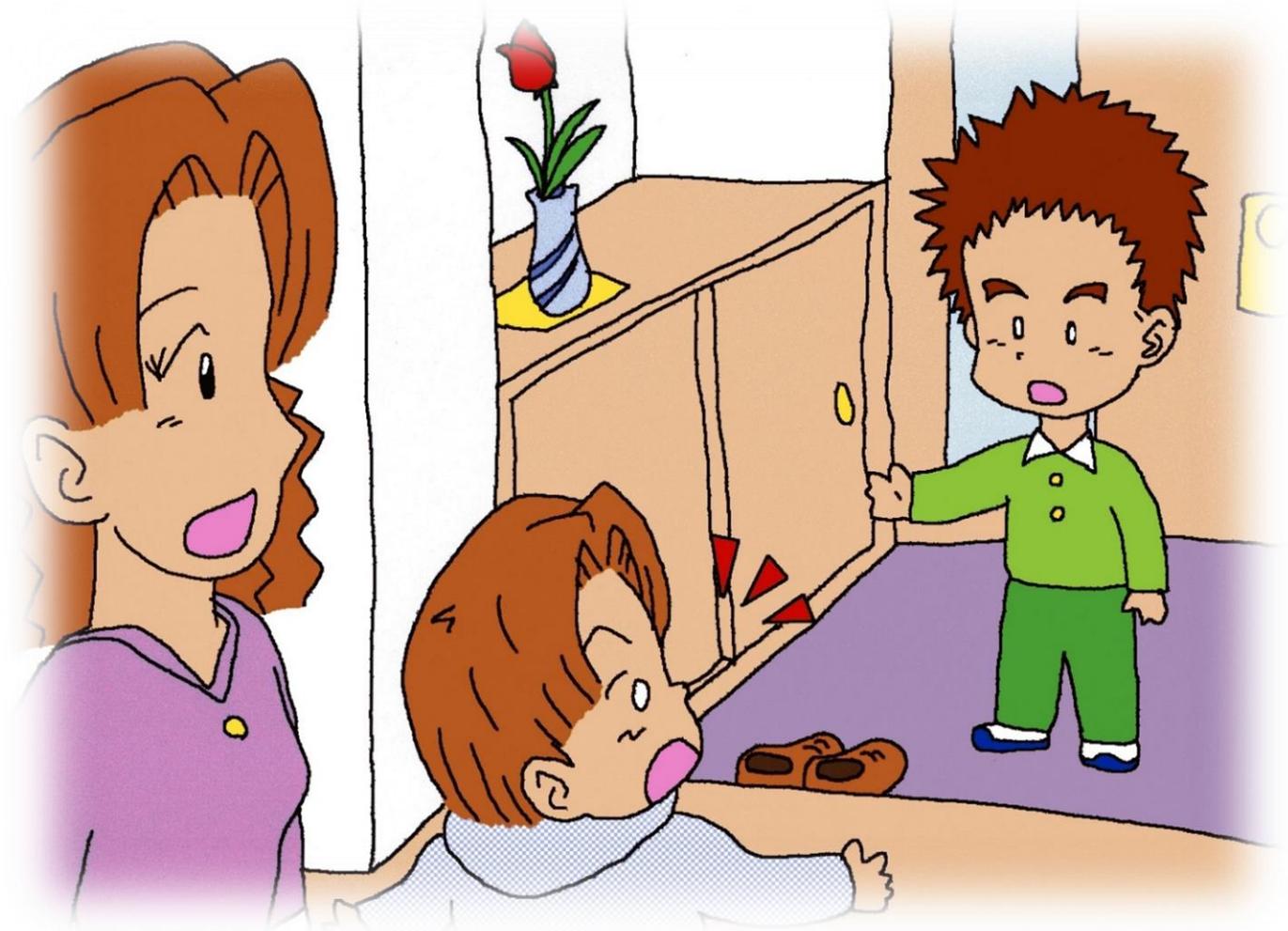
「お片付けをしていたら、ぼくの大切な金色のカードがないのに気づいたの。けいちゃん、知らない？」と言いました。

「あら、さっきの金色のカード、拾ったんじゃないの。さっちゃんのカードだったの？」とお母さんは驚いています。

けいちゃんは、「えっ、あ、あの、あの金色のカード……。」

何も言うことが出来ません。

さっちゃんの家からだまってカードを持って帰ったこと、嘘をついたことがお母さんにわかってしまいました。



「けいちゃん。」とお母さんは悲しそうな顔で話しはじめました。

「人のお家のものをだまって持って帰るのは『どろぼう』なのよ。絶対にしてはいけないことなの。  
それに嘘をついたこともとても悪いことよ。」

けいちゃんは金色のカードが欲しかったのね。でも、そのカードはさっちゃんの大事なカードだよね。

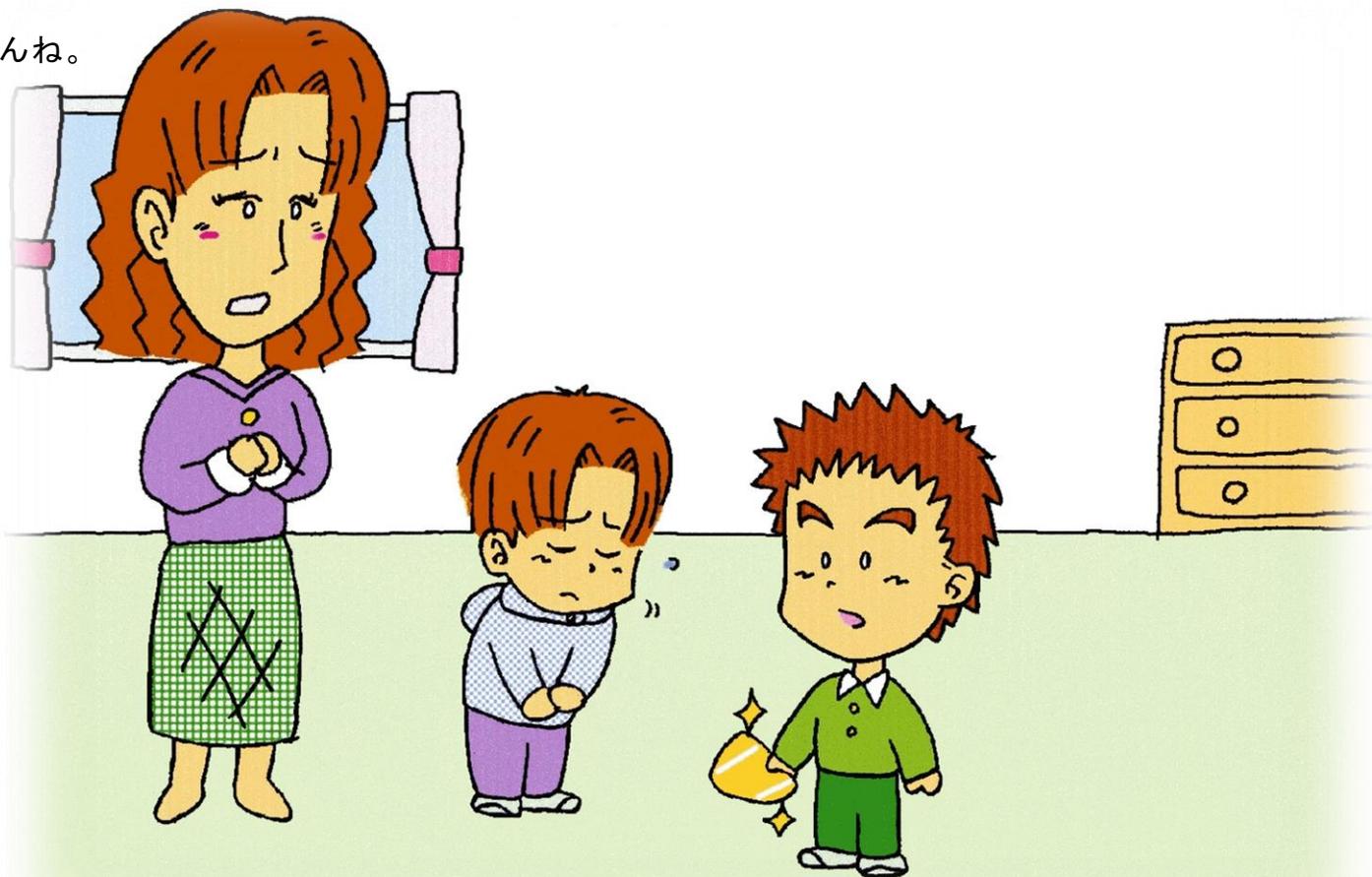
けいちゃんも、大切にしているものを誰かにとられたら、悲しいし、いやだよね。

きっとさっちゃんも同じ気持ちよ。悪いことをしたんだから、ちゃんと謝ろうね。」

「さっちゃん、大事なカードをとって、ごめんね。」

お母さん、うそついて、ごめんなさい。」

とけいちゃんはふたりに謝りました。



つぎ ひ  
次の日、けいちゃんとさっちゃんが楽しそうに遊んでいますよ。

「けいちゃん、ぼくのおもちゃ、かしてあげるよ。」

「さっちゃん、ありがとう。ぼくのおもちゃも一緒につかおう。」

と言いながら、2人はこの後も、仲良く遊びました。

なかなか  
仲直りできてよかったね。

